



第5章

健康づくりを支援するための環境整備

市民ひとりひとりの健康づくりを支援する環境には、

- ① 地域での健康づくりの実践を推進する中核となる人的環境 …… 人
- ② 活動を認め協力できる地域の人的環境 …… 協
- ③ 健康情報等の情報環境 …… 情
- ④ 行政・各種団体や機関のサービス提供環境 …… サ
- ⑤ 施設や設備等の物的環境 …… 物

があります。

「ほほえみやす21健康プラン」の実践に市民が参加し、自らの主体的な健康づくりをすすめるためには、これらの環境を整備、充実させる必要があります。野洲市では、以下のとおり取り組みます。

1. 健康を考える会への支援



健康を考える会は平成17年度より各学区に創設し、地域の実情に応じた具体的な健康づくりの実践を目指しています。委員は、自治会推薦・任期2年で交代し、身近な地域で健康を意識し、健康課題や地域の課題について意見を出しあい、考える場となっています。さらに、健康課題の内容から取り組みについて検討し、各地域の実態に応じた実践活動へと展開しつつあります。今後もこの健康を意識して行動できる市民の裾野を広げる支援をすすめます。

また、健康を考える会での実践活動が、生活習慣病予防や介護予防を地域全体で進める要として位置づけ、医療保健福祉にかかわる諸制度の改革が加速することが予想される今後、重要な地域活動としての支援をすすめていきます。

2. 健康づくりにつながる活動を 継続しているグループへの支援



合併前に策定したプランの策定や推進から、すでに健康づくりに取り組まれている個人やグループの方々、今後健康づくりを実践していく上で重要な機関や団体に所属されている方々に委員として策定や推進をとおして交流をはかっています。

地域での交流を深め、健康づくり推進の中心的役割を担う貴重なパートナーとして今後活動していただけると期待しています。今後も市民参加を重視し、健康問題を抱えた当事者やより多くの市民の声を取り入れながら、次の3点を重点的に健康づくりの支援をすすめます。

- 1) グループ間での交流の機会を拡大
- 2) 健康づくりを実践している人やグループの集いの開催と、活動の活性化促進
- 3) グループ活動のネットワーク化による健康ボランティアの展開

*なお、この支援は活動部会が中心となって進めていきます。

3. 健康情報、健康資源の有効活用への支援

情 サ 物

住民が健康行動を起こしやすい環境整備の検討等を情報環境部会が中核となって、関係団体や機関と連携しながら実施します。健康情報、健康資源の有効活用を図るための具体的な対策・方法となるのは次の3つです。

- 1) 専門機関（大学・保健所・保健センター）と連携
- 2) 専門職の人材確保
- 3) 各種支援施設との連携と調整

*なお、この支援は活動部会が中心となって進めていきます。

4. 計画の推進評価体制の推進

本計画が、効果的に実践できているか確認していくことは、とても重要です。

なお、推進体制については第1章で提示した「ほほえみやす21健康プラン推進委員会」を設置します。評価体制は、この中で取り組んでいきます。

計画策定に参画した委員からのメッセージ <50音順>

原 礼子（委員長）

新しい時代に即応するプランとなるよう策定にご尽力いただきました委員の皆様には、本当にありがとうございました。今後は、このプランに基づいた取り組みを地域に定着させていくことが求められます。このプランがどのように推進されていくのか今後も見守りたいと思います。

●活動部会

梅村 通子（健康推進員連絡協議会）

このプランの策定終了がスタートで有ると思います。
プランの推進をいかに住民の方々の巻き込んで活動できるかが、これからの課題だと考えております。

大串のり子（地域住民代表・公募）

委員になって住民の方々の健康に対する意識の高さに、あらためて気づかされました。在宅歯科衛生士として、乳幼児健診等に出させてもらっていますが、歯・口の健康の大切さを今まで以上に伝えたいと考えています。委員の活動を通じて色々な分野の方々と接することができたことが、何よりよかったと思っています。

木村 千恵（JAおうみ富士女性部）

活動部会の皆さんとヘルスのつどいに参加でき、自分の目で見、体験できることを市民の皆さんにもっと知っていただき、自分の日常生活の中に取り入れられる事を願っています。JA関係でも何かの機会にヘルスのつどいのような健康づくりの実践を進め、地域の皆さんの元気ハツラツとした生活を目指したいです。

富田 充彦（自治連合会）

活動部会に属し参加することで、健康づくりは身体はもとより生活習慣の改善においても、まず「自分に合った出切る事を継続的に実行する事が大切である」とつくづく感じました。今後家庭で、地域で啓発活動を進めていきたいと思っています。

西川ちえ子（青少年育成市民会議）

食品群別摂取量について学習しましたが、中で穀物、野菜、魚介類については、滋賀県と同量でしたが全国と比べると淡色野菜、牛乳・乳製品が少ないことがわかりました。食塩については、全国、滋賀県より少なくなっていることも学びました。今ひとつ心配なのは、子どもたちの朝食抜きが多いことが今後の課題であります。

松沢 松治（商工会）

2年間委員として関わってきた中で、今まで健康のことは深く考えなかったが、健康といっても若い人から高齢者まで、体の健康や心の健康と様々有り、多様な健康づくりが勉強できました。健康プランが策定されましたが、これがスタートで今後の推進が大事だと感じます。多くの市民の参画と行政の共働で推進して行く事が大事だと思います。

南清右衛門（体育振興会連絡協議会）

私はこれまでスポーツを通じて健康増進と体力保持を提唱してまいりましたが、策定委員になり、生活習慣病はメタボリックシンドロームとして着目され、地域全体が一体となって取り組む重要性を認識しました。今後は保健医療・スポーツ振興等々関係団体が連携を密にして市民が健康で笑い声が飴（こだま）する「まちづくり」をめざして頑張りたいです。

森下 和美（シルバー人材センター）

高齢者の団体であるシルバー人材センターでは、就業を通じて社会参加し、生きがいの充実を図ることを目的としています。心身ともに健康で、「生涯現役」を目指すためにも、健康づくりについて考え、実践に向けて取り組んでいきたいと思っています。

野洲喜代治（社会福祉協議会）

プラン策定に参画にし、超高齢化社会が急速に進む中で「元気で長生きする」ことの大切がひしひしと感じられます。社会福祉協議会では地域福祉・高齢者福祉・介護保険事業を進める上で気軽な運動を取り入れた健康でいきいきと暮らせる実践づくりを推進していきたいと思っています。

●情報・環境部会

市木 圭子（地域住民代表・公募）

健康は誰もが望むことではありながら、健康づくりを実践することはなかなか難しいものです。私は情報環境部会に参加し、このプランが市民のみなさんに理解され、うまく活用していただきながら健康づくりの後押しになることを願いつつ策定に関わってきました。健康は幸せに暮らす大切な道筋だと思っています。

上口 友実（学校保健養護教諭部会）

いろんな立場の方が集まって1つのことについてそれぞれの視点から意見を出し合う活動は、自分自身の学びの場でした。今後も地域と連携しながら将来の野洲市を担う子どもたちの健全な育成に力を注ぎたいです。

大井 健（南部振興局・草津保健所）

野洲市ほほえみやす21健康プランが策定されました。このプランを多くの人に知っていただくために情報提供に努め、さらに市民の皆様に役立つようにプランを実践することが大切になります。力を合わせてがんばりましょう。

北野 勝（商工会）

この2年間、委員をさせていただきありがとうございます。野洲市ほほえみやす21健康プラン策定にあたり、心身両面の健康がいかに関生活と直結しているか、よくわかりました。これからこのプランを企業に、また皆様にどのように役立てていくかにかかっています。特に、高齢者の方々に1つでも多く実践していただければ、幸せかと思います。

杉山 健二（医師会）

2年間にわたって健康プラン策定に関わり、様々な立場の委員の方と検討する中で、有意義な時を過ごさせていただきました。今後はプランを土台にして具体的な実践にどう結びつけていくかだと思います。医師会としてもできる範囲で協力させていただきたいと考えています。

橋本 昌治（歯科医師会）

旧プラン策定から参加させていただき、忙しい中にも有意義な2年間を過ごせました。内容充実、ぜひ市民の皆様にも有効に使っていただきたいと思います。

藤井 礼子（薬剤師会）

自分の健康は、自分に応じた健康づくりを。そのための生活環境づくりは社会全体で推し進めていこうと。この健康プランが皆様の参考になりますように。

牧野 幸子（地域住民代表・公募）

健康プラン策定の中で食事のバランス、歩く事の大切さ、タバコの害、心のケア等を勉強させていただきました。今後はこれらを活かして地域の人達と健康について話し合い、ともに実践していきたいと思っています。

南 喜代志（教育部長）

人が生き生きと生きがいをもって生活するためには、まず健康な心と体が必要です。策定会議には公務と重なり他の委員の方々にご迷惑をおかけしたと思っています。幼児期からいつまでもスポーツを通じた体力づくりに心がけ、年齢に応じた体力年齢を維持し、一人ひとりが健康であれば、家族、地域全ての市民が健康で活力あるまちづくりにつながります。ウォーキングでも体操でも何か一つ自分にあった体力づくりを始めましょう。

山本カツ子（部落解放同盟）

地域の老人会の一員としての視点から策定に参画させていただきました。長寿命、団塊世代の合流で、高齢化社会が拡大し、余生を楽しく悠々と送れる人もありますが大半は何等か不安（健康・経済・人間関係）を抱えて日々を暮らしていらっしゃるのではと思います。こうした人々が不幸な結果にならない様にこの健康プランを活用し考え行動に移したいものです。